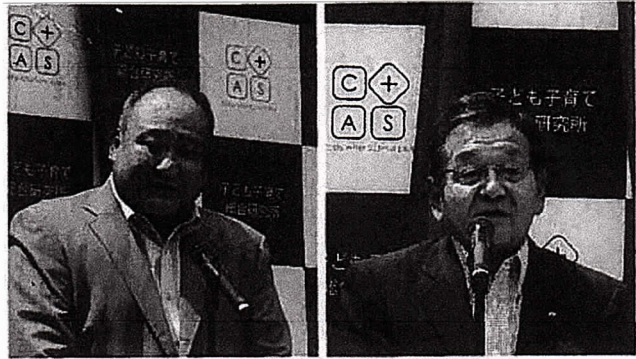


# 子供の力を引き出す新たな試み

## ミサワホーム 学童施設でチャレンジ

### 東京・渋谷区に「コピーアフタースクールプラス代官山」開校



(左より)子ども子育て総合研究所の小林照男社長(コピーアンドアソシエイツ社長)、ミサワホームの竹中宣雄社長

ミサワホームは学童施設で新たなチャレンジを始めた。小学校1年生～3年生を対象とするもので、従

来では全くなかった仕組みを導入している。ミサワホームとコピーアンドアソシエイツは「子ども子育て総合研究所」を昨年設立した。新しいチャレンジは同研究所が来年3月に東京都渋谷区代官山で開校する学童保育施設「コピーアフタースクール」で行う。働く母親のために子供たちをあずかることで学習の場を提供する施設ではなく、子供の力を引き出すための様々な工夫が施されている点が大きな特徴だ。様々な分野にわたる能動的な体験型学習の「アクティブラーニング」を軸に、子どもの好奇心を刺激して自発的に楽しみながら習得できる学びを提案している。新たなチャレンジを可能にしたのは昨年ミサワホームとコピーアンドアソシエイツが「子ども子育て総合研究所」を設立

したので。ミサワホームはこれまで「コピーアンドアソシエイツ」と共同体制により、10カ所で保育園を手掛け、そのうち7施設でキッズサイン賞を受賞する。独自の空間デザインを駆使した施設は高く評価されている。

「これまで社会のニーズに応えるために、アフタースクールを保育園に併設する形がよってきただけで、代官山に開校する学童保育施設「コピーアフタースクール」は、コピーアンドアソシエイツの独自性を活かして、機能をたくさん付け加えた。子ども達の育つ力をどうやって引き出すか。これが大人の役目である。子どもが育ちやすくなるように自然に発揮できるような環境をつくるのが私たちの役目である。また、セレモニーで挨拶したミサワホームの竹中宣雄社長は次のように語った。「アメリカの学者が言っていたのだが、現在の小学生の中の65%は将来に必要な職業につくことができない。私が社会人になった時には、IT産業はなかった。コンピュータもなかった。いままでに全くない職業がどんどん出てきている。共通課題はグローバルな競争で、子ども達にどうやって生きていってほしいか、という。学校教育も重要だが、放課後という学習環境を提供するために、未来に必要な能力を育てていくことが重要な課題であり、コピーアフタースクールは幅広い能力を育成する仕組みを意識している。このチャレンジは、子ども達も素晴らしい」と語った。

「小学校1、2、3年までの人が出来る上がる時期の教育は非常に重要」という。

施設の特徴・概要は次の通り。1階は、図鑑や趣味の本など幅広いジャンルの本を揃えた読書コーナー。読書が好きな子供が読書を楽しむことができる「フィールドライブラリー」や「アクティブカフェ」・「図画や工作・実験などができる「アクティブラボ」スペースを設けている。遊びや体験を楽しみながら、好奇心や探究心を高め合う場を提案している。



2階ラーニングフロア

「空間は活動を支えているから、個別に机がないような状況なら活動することは難しい」と空間のデザインが重要なポイント。子供達の力を伸ばすには「空間だけでは完結しない。ミサワホームは、子ども達が好きなように活動できるように、コピーアフタースクールプラスの代官山開校への思いを語った。

2階は、個別の学習空間「ラーニングデスク」や床座スタイルで読書・学習ができる「ラーニングフロア」、子どもの世界を広げ将来の糧になる書籍を取り揃えた「フォレストライブラリー」など一人ひとりが好きなスタイルで自由に学習に集中できる。中出来る空間設計となっている。

運営主体は子ども子育て総合研究所、対象学年は小学校1年生～3年生、基本利用日時は平日13時～19時(延長19時～21時)、基本利用料金は月額税込込み8万円(週5日利用の場合)